



第 15 号

二葉とこども

発行元：社会福祉法人 二葉保育園 「二葉支援の会」
発行日：2013 年 8 月 1 日

子ども、家族、地域をつなぐひとつの存在として

二葉の原点

「二葉」は子どもを保育・養護する児童福祉施設である。いつぞや「二葉」は高齢者福祉や障害者福祉はやらないのかという質問を受けたことがある。その時は「二葉は 100 年以上も児童福祉一筋で、他の分野の福祉はやらない」と答えた。むろん現在もその方針に変わらない。現在も地域福祉や里親支援等、児童福祉を基調としているには変わらないものの、保育所に子どもを預けている親や乳児院、児童養護施設に入所する児童の家族を見ていると、子どもだけの支援ではより良い保育や養護を追求できないということにも気づかされることがある。

110 年ほど前の二葉も同様に子どもを昼間保育するための「二葉幼稚園」で始まったものの、だんだん取り組みを進めていくうちに「酒乱の夫から逃げる母子、家を退去させられた病身の母と子を園の一角や物置に宿泊させていた」、「幼児に限らず小学生や高学年も親やおとしよりも預かった」、「病気がちの家庭が多く医療も受けられないので夜間診療所を作った」、「店が無いので売店を作った」、「食事もままならない家庭が多いので配食サービスを行った」など、子どもを中心に置きながらもその時代に必要とあれば考えられることは何でも取り組むというのが二葉の原点であったことが史料からもうかがい知れる。

今は施設整備にチャレンジ

今は、現在改築中の二葉学園についても都市部で児童養護施設が足りない状況で定員を減らすことなく子どもが恵まれた環境のもとで育つ住処を創造しているし、二葉むさしが丘学園も同様に東京都へ建物の改築申請を提出した。また、二葉の本家である「二葉南元保育園」についても新宿区には保育園に入れない待機児童が多くいるので、その待機児童対策のために定員を今よりほぼ 2 倍とするためにも、改築を始めたところである。

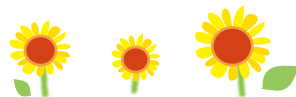
つながりを大切にした新たな取り組みを

このように今はハード面の整備をしながら、次の二葉の課題としては子ども、家族、地域をよりつなぐ事業や取り組みの実践だと思っている。さまざまな人から助言をいただきながら展開し、歴史の古さのみにすぎることなく二葉の歴史に学び、これからも進化し続ける二葉でありたいと願う。

そのためにも多くの皆様から重ねてのご支援をよろしくお願いいたします。

引越しました！

二葉南元保育園 主任 山崎 雅世



改築に向けて6月8日に四谷園舎への引越しをし、6月10日より新しい生活が始まりました。四谷園舎は旧四谷第三小学校の校舎で大変広く、二葉南元保育園初のランチルームもあります。何もないお部屋を初めて見た時、ここをどのようにして保育室にするのかという不安もありましたが、1人ひとりの職員の知恵と力に



よって、まるでもともとその場所が保育園であったかのように、初日から順調なスタートをきることができました。

四谷園舎の近くに高齢者が集う「ことぶき館」があります。幼児のクラスはこの「ことぶき館」の利用者の方々から踊りを教えて頂くような交流も計画中です。また、今まで定期的に訪問していた高齢者デイケアサービスセンターへの訪問も続けていきます。まだ引越してから間もないのですが、体験保育や一時保育の申し込みも立て続けにきています。

四谷園舎での生活は来年の夏まで続きますが、これからも地域に開かれた保育園でありたいと思います。

帰ってくる場所、そして懐かしい雰囲気の中で

二葉くすのき保育園 主任 酒井 奈美江



調布市国領に移転して「二葉くすのき保育園」となっ

てから36年が経ち、800名の卒園生を送り出しました。今、卒園生が「保護者」となって戻ってきたり、実習生やボランティアとして園に関わってくれるようになりました。また卒園児の保護者の方が園庭の畑の手入れをしてくれたり、卒園児の祖母の方(80代)が手作りの紙芝居を子どもたちに見せに来てくれたりしています。時には小学生が仲間と連なって訪ねてくることもあります。

5年前から「のびっこくすのき」の会を開き“卒園生とその保護者”が保育園に帰ってきておしゃべりしたり、思いを語り合う(主に保護者)機会を作っています。どんな形にしても巣立っていった子どもたちや保護者の方たちが保育園を懐かしく思ってくれ、訪れてくれることは大変嬉しいことです。

また子育て支援事業の中で地域の子育て中のお母さんたちは、緑豊かな手入れの行き届いた園庭を見て感激しています。自分の子どもの頃を思い出す人もいるようで心が癒されるようです。

昨年より保育園の近くにできた特別養護老人ホームに年長児たちが訪問させてもらっています。地域とつながっていく方法はたくさんありますが、くすのきなりに考え実現していきたいと思います。



地域とつながること

二葉乳児院 院長 都留 和光



二葉乳児院は、地域子育て支援センターを付設しております。そういった意味では、地域に開かれた施設といえるでしょう。しかし、それで満足しては、乳児院本体としての地域へのつながりは無いと考えてしまいます。そこで、乳児院が本当の意味で地域につなが

ることとは、何か、職員に聞いてみました。

幼児さんはもちろん、乳児の段階でも、ご近所に散歩に連れて行ったり、地域の神社への初詣にはじまりお祭りへの参加はこの地域の中では、二葉の子どもたちだと十分に可愛がられています。また、地域のもちつき大会での猛烈な食欲も喜ばれます。2歳児は信濃町の子ども家庭支援センターの2歳児の会に参加したりもしています。

本来、地域の中心にはこどもが居るものです。おかげさまで、地域のなかでたくさんの人たちに見守られて、子どもたちは本日も快調であります。



特集記事 “リンクメーカー”

「地域とつながる二葉の取り組み～二葉乳児院・里親支援機関事業」

今号は現在、社会福祉法人二葉保育園で子どもやその家族の福祉のために特に地域とつながる（＝リンクする）取り組みを行っている人々をクローズアップした特集コーナーを組みました。今号でご紹介するのは平成20年度から地域のなかでより広く里親支援を行うために、二葉乳児院が行ってきた里親支援機関事業です。この事業の担い手たちがどのようなことに取り組む、地域とどうつながっているのか。お話をうかがいました。

百瀬 さっそくですが、この里親支援機関事業が始まった由来を教えてください。

長田 平成20年度の児童福祉法改正に伴って、政府が新たに打ち立てた事業が里親支援機関事業でした。厚生労働省から各都道府県に実施を通達したもので、東京都は平成21年2月からこの事業を試行しました。東京都には児童相談所（以下、児相）が11カ所あり数が多いので、まずは東京都児童相談センターから始めることになりました。児相という行政の中に民間を入れるという前例のないことでしたが、二葉乳児院がその事業を受託しました。

百瀬 二葉が受けることになった理由はどのようなものだったのですか。

長田 二葉乳児院には以前東京都独自の活動として「養育家庭センター」（措置された子どもと里親の調整も含めて行っていた機関）があったので、専門性や実績などを評価されて選ばれた経緯もありました。この養育家庭センターはかつて多くが児童養護施設等に併設されていて、里親の方々ととてもよい関係を築いていたようですが、平成13年度に廃止されてしまいました。

百瀬 これまでの実績を前提に二葉が受けることになったということですね。では、実際に里親支援機関事業を二葉乳児院が受けてからはいかがでしたか。

長田 私がこの事業の担い手である里親委託等推進員（以下、推進員）第1号になりました。私は前職で里親の巡回相談を行っていたことがあり、前二葉乳児院院長の鈴木祐子先生からの提案もあって、里親支援にかかわる機会を頂いてきました。この前院長の里親支援に対する想いは私にとっては大きなものでした。そこで、都留和光院長と相談し、まずはモデル事業として3年間、私が担当させてもらうことになりました。実際は様々な出来事があって、本当に苦勞もしました（笑）。

百瀬 苦勞も数えきれないほどあった、ということですが、その時期があって今の里親支援機関事業の取り組みがあるのですね。

長田 試行期間1年目の間は相談業務も受けることが許されず、本来の里親支援のような事業はほとんどできなかったこともありましたが、2年目からは徐々に相談業務も受けることができるようになりました。そのあと相談業務も増えてきて、里親が希望すれば推進員が家庭訪問をして相談ができる、新規の里親委託の際には半年間定期的に訪問相談するという2つが始まりました。相談業務をどう扱うかということも話し合われ、平成23年度にはこの事業は3児相に広がり、平成24年度から11児相という流れになりました。



photo: 里親についての広報啓発風景@子育てまつり

地域に見守られ、育むところ

二葉むさしが丘学園 栄養士 田中 大介



5月18日「小平父の会」よりさつま芋と落花生の苗植えのお誘いがあり、学園の子どもたちと一緒に行って来ました。

父の会との繋がりは、去年の春、じゃが芋の収穫にお誘い頂いたところから始まりました。去年のじゃが芋は土嚢袋6袋ほど頂き、学園でサラダやグラタン、カレー、キャンプの食材などたくさん使わせて頂きました。子どもたちは、自分たちで収穫したじゃが芋を早く食べたくて、学園に着くとすぐに料理して欲しいと要望があったくらいでした。

今年は、収穫だけでなく、苗植えからさせて頂き、栽培と収穫の両方を体験させて頂けたことは、子どもたちにとっても貴重なものとなりました。父の会の方々に、丁寧に教えて頂きながら、苗の1本1本を大切に丁寧に扱って、植え付けをしたばかりなのに、子どもたちの中には

「焼き芋にして食べたいな」など食べる時の話をし出す子もいたりして、秋の収穫が楽しみといった様子でした。

今年は昨年のお礼も込めて、学園職員でカレーを作り父の会の方々にも食べて頂きました。さつま芋と落花生の秋の収穫がとても楽しみで、待ち遠しく感じています。これからも地域の方々との繋がりを大切に、日々子どもたちが健やかに身体も心も成長していけるよう、支援していきたいと思います。



地域のなかで、地域とともにできることを探って

二葉学園 地域支援担当 / 里親支援専門相談員 鈴木 喜子

二葉学園では、狛江市と府中市のショートステイ事業を受託しています。両市ともに市内に児童養護施設がないため、隣の市にある二葉学園がショートステイをお受けすることになりました。

狛江市では2～12歳まで2名定員で、冠婚葬祭や就労、育児負担の軽減などのケースをお受けしています。最近では、地域で行われるケースカンファレンスにも参加をし、ショートステイがよりよい形で利用していただけるように、関係機関と連携を進めています。

府中市では2～12歳まで2名定員で、一般的なショートステイではなく緊急一時的なショートステイの受

け入れを行っています。児童相談所の一時保護が決まるまでの数日間、緊急的に親と子を分離する必要がある場合などに利用してもらっています。

近年、児童養護施設においても地域の子育て支援に携わることが求められてきています。先に書いたショートステイ事業、平成24年度より里親支援専門相談員を配置するなど、二葉学園としても少しずつの歩みではありますが、地域の方々と連携をして子育てに携わることを進めています。本園改築後は、新たに地域の方々のための子育て支援につながる事業も展開していきたいと考えています。



加藤登紀子 チャリティコンサート “子どもたちの輝かしい未来のために”

社会福祉法人二葉保育園では、3つの施設の老朽化に伴い、施設の改築に取り組んでいます。次代を生きる子どもたちのために最善の事業を展開していくために施設はそのための大切な柱のひとつです。このたび、歌手の加藤登紀子さんのご協力を得て、改築のためのチャリティコンサートを開催します。ぜひご来場ください！

開催日時 2013年9月13日(金) **開場** 17:30 **開演** 18:30

開催会場 調布市グリーンホール 大ホール
(京王線調布駅から徒歩1分 TEL: 042-481-7611)

出演 加藤 登紀子 (かとう ときこ)

チケット 全席指定 S席 ¥6,500 A席 ¥5,500 学生席 ¥1,000

チケットは、社会福祉法人二葉保育園法人本部(下記)または各園でご購入いただけます。

電話 03-3341-1205 (月~金 10:00~17:00) / FAX 03-5368-1969 (24時間受付)

※ FAX 記載内容: お名前・ご住所・希望座席数・電話番号または E-mail アドレス

【共 催】 社会福祉法人二葉保育園チャリティコンサート実行委員会、二葉支援の会

【後 援】 調布市、調布市教育委員会、東京都社会福祉協議会、調布市社会福祉協議会
ユニバーサルミュージック、登紀子倶楽部

【企画制作】 株式会社トキコプランニング 【協 力】 アーク印刷株式会社



シンガーソングライター。
代表曲に「ひとり寝の子守唄」
「知床旅情」「琵琶湖周航の歌」
「百万本のバラ」など多数。
スタジオジブリアニメ「紅の豚」(宮崎駿監督作品)では
声優としてジーナ役を務め、
挿入歌・エンディング等を提供。
環境から福祉活動まで幅広く活躍。

百瀬 平成24年度から岩間さん、宮内さん（この日は欠席・平成23年8月より担当）、鷲尾さんという3名が新たに仲間入りしたわけですが、岩間さんはどうしてこの仕事を志願されたのですか？

岩間 以前児童養護施設に勤務していた時には子どもとプレイセラピーをしたり、言語面接を行っていました。でも子どもの場合、外泊や外出などの時に親に会うことで、気持ちや心が揺らいでしまうこともあります。子どもへの親の影響の大きさを実感し、子ども支援よりも親支援をやりたいと思い応募しました。



岩間さん

百瀬 岩間さんのなかで子どもと向き合っていた児童養護施設の頃と比べて、里親支援にはどのような問題がありますか。

岩間 親を介して子どもの対応を考えるということが多いです。親と関わる中で感じることは問題がなさそうに見えた里親さんでも、話を聴いていくと困っていることがあったりする。丁寧に聴いていくと里親さん自身が困っていたり、時には周囲から責められるということもあったりします。

百瀬 そういう時に岩間さんは里親さんに向き合っているという言葉をかけるのですか。

岩間 その時の里親さんや子どもの状況によっても変わるのですが、その時の状況、里親の気持ちをまずはきちんと聴いて、一つひとつ生活のなかで困っていることに付き合っていくということを大切にしています。

百瀬 岩間さんのお話をうかがっていると児相、里親、子どもとその間を取り持つ「コーディネーター」という役割が推進員には見えてくるように思いますが、鷲尾さんは推進員の仕事をコーディネートという意味合いで考えておられるのですか。

鷲尾 やはり推進員には「コーディネーター」の要素が求められると思います。一戸一戸、戸別訪問しながら、この家庭にはどのような支援が必要なのか、児相や地域の子どもの家庭支援センターなどを含めて必要な社会的な資源をつなげていく、そういうことも推進員の重要な仕事ではないかと思っています。

百瀬 コーディネートというのは必要でも間を取り持つことがメインな仕事と考えると、やりがいや必要性が見えにくい面が一見するとあるように思いますが、仕事を進めていくなかで鷲尾さんはこの事業の意味をどのように考えていらっしゃいますか。

鷲尾 たとえば児相が求めるのは「情報」だと思うのです。措置した児童、または委託先である里親に問題があるかどうかを把握したいとか、問題がなければ事務的な用件が訪問の目的として主なのかなと思います。ただ、私たちの役割は少し違って、その里親さんや子どもの「想い」に寄り添っていくことです。私たちが戸別訪問することで、情報というより「生身の想いや気持ち」の部分も持ち帰れることが私たちの役割ではないか、と思います。

百瀬 里親さんや子どもの想いに寄り添っていくということにこの事業の意義を改めて感じますね。では最後に、皆さんが日頃から心がけていることはありますか。

岩間 里親、里子（子ども）、児相、いろいろな想いがあって、でもそれぞれに想いのずれがあると思いますが、そういうずれをすり合わせていくことかなあ。

鷲尾 児相から見た里親像もありますが、それ以外の面も私たちからは伝えていきたいと思っています。たとえば、実際にお会いして話を伺ってみるとその里親さんなりの苦労があったり、里親として受けた当初の大変さを聴いたりということがあります。そういうことも丁寧に拾っていくことを心がけていますね。



宮内さん

長田 里親支援機関事業は、長くやっていくということにその意味があるように思います。

あの頃（里子として受けた子の幼いころ）を知っている人がいるということが、里親さんにとって必要だと感じることもあるようです。私たちは年2回、里親さんのところへ定期訪問を行うのですが、事務的な手続きではなく、里親さんの話を聴くためにうかがいますので、里親さんとの関係性の深まりはより確かなものが築けることが多いです。そういうことも大切にしていけたらな、と思っています。

百瀬 なるほど。皆さんの存在は地域の中で時間をかけて里親、子ども、児相という点と点をつなげていく線の役割も大きいのだと感じました。今日は本当にありがとうございました。

2012 年度にご寄付をお寄せ下さった皆様

感謝をもってお知らせいたします。本当にありがとうございました！
総額 2,161,000 円が集まりました。

改築プロジェクトをはじめ法人運営のサポートや各事業所の活動に充てさせていただきます。

愛知 芙美子	遠藤 勝司	久保川 貴	陶山 義雄	野口 三重子	三田 則行
秋山 美枝子	遠藤 久江	小泉 直子	瀬尾 義広	野澤 理子	宮沢 成実
東島 光子	大島 尚子	小糸 一子	関沼 幸通	野田 みづゑ	宮嶋 京子
東島 由季	大野 恵子	小林 絹江	高木 みさ子	野津手 真理子	冥賀 令
網野 武博	小川 直子	小櫃 テイ子	高野 裕史	橋本 照明	武藤 誠
新井 美津子	尾崎 百合子	小山 郁美	高橋 喜久江	橋本 康彦	宗像 雅子
井口 照子	尾崎 裕美子	小山 和子	瀧口 桂子	鳩山 安子	村田 弘子
石尾 美枝子	織田 信行	強瀬 順子	田口 美穂	林 伸子	本山 美八郎
石川 正行	小田 昭子	坂倉 綾子	武田 康男	林 千尋	森 晶子
伊豆 道子	折茂 伸満	坂本 和子	武村 愛子	林 浩康	山浦 晟暉
磯谷 文明	貝沼 真理	貞弘 千鶴子	伊達 ナナ	伴野 誠一	山田 美和子
磯部 日出夫	香川 敦子	佐藤 喜延	田中 佳子	久武 雅志	山田 美恵子
市東 和子	笠原 勝子	志賀 奈美	田中 洋平	檜山 栄	山田 あきこ
伊藤 陽子	梶ヶ谷 洋子	穴戸 健夫	谷 桃子	平松 進	山田 高生
乾川 日出夫	片倉 昭子	清水 純子	鶴見 市子	廣瀬 久也	渡邊 憲代
井上 従子	加藤 公子	清水 天恵子	富田 すけの	廣瀬 篤史	
井上 収之・静子	河津 英彦	菅谷 広子	中井 龍太郎	藤井 常文	アーク印刷株式会社
井上 美恵子	川西 康裕	須川 暢子	中島 太味子	藤澤 晴子	正晃株式会社東京支店
岩見 守和	川野 陽子	杉浦 孝夫	中村 マサ子	堀越 信子	尚生会
上田 桃子	菊田 桂子	鈴木 美邦	中村 恵子	マイタニフミカ	女子学院宗教部
植山 洋子	木村 真理子	鈴木 怜子	西田 葉子	松谷 醇子	東中野教会
宇都宮 仁子	久我 剣太郎	鈴木 博人	西田 和子	松本 園子 他	計 135名
梅森 襄	久邇 正子	鷲見 達也	西谷 さやか	真鍋 美一	(含む 団体5件) 順不同・敬称略

社会福祉法人二葉保育園では、施設の改築や子どもたちの養育、法人運営のサポートをするために「二葉支援の会」という後援会を運営し、ご支援下さる方から資金をお寄せ頂いております。同会に入会をご希望の方は、年会費 5,000 円をお振込の上、法人本部までご連絡下さい。また、ご寄付をいただけることも大歓迎です。

ご理解とご支援を心よりお待ちしております。

※ 当法人への会費、寄付は社会福祉事業への寄付として寄付金控除の対象となり、確定申告の際に減税措置を受けられます。

郵便振替 ▶ 口座番号：00120-2-30321 口座名義：社会福祉法人二葉保育園

銀行振込 ▶ 三菱東京 UFJ 銀行 支店名：四谷支店 口座番号：普通 0506208 口座名義：社会福祉法人二葉保育園 理事長 遠藤久江

クレジットカード ▶ 社会福祉法人二葉保育園ホームページよりお手続き頂けるようになっております。

社会福祉法人 二葉保育園 概要

法人本部

所在地：〒160-0012 東京都新宿区南元町 4 番地
TEL:03-3341-1205 / FAX:03-5368-1969
設立：1900 年（明治 33 年）
理事長：遠藤 久江
常務理事：武藤 素明
理事：河津 英彦、網野 武博、押切 重洋、福田 敏朗
監事：園 武友、乾川 日出夫

二葉乳児院

院長 都留 和光
児童定員 40 名 職員 51 名
住所：〒160-0012 東京都新宿区南元町 4 番地
TEL: 03-3359-4578 / FAX: 03-3359-4596

二葉学園

統括園長 武藤 素明 園長 小倉 要
児童定員 52 名 職員 51 名
住所 本園：
〒182-0035 東京都調布市上石原 2-17-7
TEL:042-482-2578/FAX:042-480-5200

二葉南元保育園

園長 工藤 有子
児童定員 61 名 職員 25 名
住所（仮園舎・四ツ谷園舎）：
〒160-0003 東京都新宿区本塩町 2
TEL:03-3351-3819/FAX:03-3357-3707

二葉くすのき保育園

園長 八木澤 真理子
児童定員 100 名 職員 35 名
住所：〒182-0022 東京都調布市国領町 3-8-15
都営くすのきアパート 1 号
TEL:042-487-8309/FAX:042-487-8309

二葉むさしが丘学園

統括園長 武藤 素明 園長 黒田 邦夫
児童定員 66 名（グループホーム 6 名含む）
職員 51 名
住所 本園：
〒187-0011 東京都小平市鈴木町 1-62-1
TEL:042-344-9911/FAX:042-345-7836